

油山の宝物さがし ～「江戸時代の山林」展に見る福岡の森～

福岡市博物館ではこの2011年8月中旬まで「江戸時代の山林」と題する展示が開催されていました。油山を含め江戸時代の福岡の森の様子が絵図などで示された楽しい展示でしたのでご紹介します。

■ はげ山だった東平尾の山

福岡城下、周辺を描いた多くの絵図には山林が密なところ、疎のところを描き分けられています。時代が下がった絵図ほど疎の描写が増え森林利用が育成を上回っていったことが偲ばれます。

中でも17世紀中ごろに行われた山林調査図「竹山之図（たけやまのず）」で、今はスポーツをする人で賑わう、博多区東平尾運動公園付近の丘陵は木が疎で、その一角はほとんどはげ山状態であることが示されています。

■ 山の所有・利用

では山は誰のものでどのように利用されたのでしょうか？

基本的に福岡藩領内の山は御山（おやま）と呼ばれすべて藩の管理下におかれていたそうです。家臣や領民が使えるのはその一部で、利用のしかたにより武士に与えられた拝領山（はいりょうやま）、山林を育成することを条件に個人が専有した証拠山（しょうこやま）、農民が下草・薪を採取する野山（のやま）などありました。

■ 福岡藩の山林行政

当時は木から生活に必要なものの多くが作られていて藩の財政上、山は大切なものでした。しかし藩財政再建のためしばしば過剰な伐採が行われていました。はげ山ができれば水害も起こり



《柏原からみる広葉樹に覆われた油山の麓 2010年3月》
また山林に関する行政機構は何度もかわり長期的な山林行政が難しかったようです。

■ 油山周囲の山林

江戸時代の山林面積を示した御山帳（おやまちょう）から今回の展示のため作成された図「江戸時代の福岡市域の山林面積」は興味深いものでした。柏原村約120万坪、檜原村約150万坪、東油山村約20万坪、小笠木村約260万坪と市域のなかでも広い山林面積を油山山塊は持っていました。油山の南側である小笠木村の山林は用途の割合が示されており御山37%、拝領山6%、証拠山1%、野山56%と下草・薪利用の面積が半分を超えているのが興味深いです。

この後明治には森林の官民有区分が行われ油山の一部は国有林となりました。9月活動日には油山国有林の戦後と共に歩んだ日下部さんのお話を伺い森を散策する予定です。（柴戸）

参考資料 「福岡市博物館常設展示室（部門別）
解説 390 江戸時代の山林」